彦根城博物館だより

大名の装い 井伊家伝来装束を中心に



紫緂唐草に橘紋平緒

華やかな帯です。 す。大名家の正装にふさわしい 世子が用いたものと考えられま とから、束帯の着用を許された 時代の作とみられ、また、「若 を施しています。全体の整った 様を刺繍し、縁にも複雑な刺繍 伊家の家紋である橘紋と唐草文 地に、萌黄、紅、黄の色糸で井 す。白と紫とを交互に配した帯 るす)ための帯。これは、腰に 使用する、太刀を佩く(腰に吊 作りと細やかな刺繍から、江戸 てた、切平緒とよばれる形式で 巻く帯と腹前の垂とを別に仕立 に石帯と共に納められているこ 殿様御官服御用」と記された箱 平緒は、束帯を着用する際に

2023年 3/1 7(月)

展覧会 情報

当館蔵

「テーマ展

3_月 17_日 ▼ 4_月

. 17⊟

大名の装い

— 井伊家伝来装束を中心に—

国宝・彦根屛風

特別公開

4_月

20日 ***** 5月

.16

木俣清左衛門家文書彦根藩筆頭家老

井伊直亮の雅楽器収集 大コレクション形成の現場ー 6_月 23_日 7_月 25∃

テーマ展 滋賀県指定有花文化財 指定記念 5_月 19日 **※** 6_月 20⊟

示 案 内 2023年3月) 月

展

ではんもの。との出会い

常設展示

彦根藩井伊家伝来の大名道具を中心に八〇点あまりを展示

3/17(金) 4/17(月) デーマ展 示 室 1

4/20(木)~5/16(火)

展

特別公開

展示室1

大名の装い

井伊家伝来装束を中心に―

古来、

衣服は、形や色、素材等に

国 宝 • 彦根屛 風



緻密な筆致、金地を 犬などの華やかな風 考えられています。 四四)頃の京の遊里と 小袖や髷、煙管や洋 寛永年間(一六二四 傑作「彦根屛風」。 に至るまで表現する 舞台は江戸時代、 近世初期風俗画 毛筋の一本一本

ど、機知あふれる「見立て」、全体を 世界を堪能ください。 覆う静寂など、多様な魅力にあふれる た構図、琴棋書画や謡曲「芭蕉」な 風俗図(彦根屛風) 背景とする洗練され



・小さ刀拵蝋色塗鞘大小拵

4月22日(土)14時~(30分程度)

会場 当館講堂

■定 量 参加費

講日

師時

茨木 恵美(当館学芸員)

3月18日(土)14時~(30分程度)

スライドトーク・

黒地鮫小紋橘紋付肩衣

50 無 名 料 (先着順

大名の装いを紹介します。

して、東帯や裃等の礼装を中心とした 装束に加え、当主の肖像や古文書を通 では、井伊家当主やその世継が用いた する装束が決められていました。本展 加する儀礼や行事、格式に応じて着用 を反映した服制が定められ、大名も参 きました。江戸時代においてもそれら よって身分や地位を示す役割を担って

講 師時 髙木 文恵(当館学芸員)

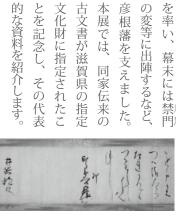
当館講堂

■ ■ 章 参 加 費 場 50名(先着順

5/ (金) 6/ 2C (火) デーマ展 展示室

彦根藩筆頭家老 木俣清左衛門家文書

を率い、幕末には禁門 代々家老役を務め、軍事面でも先手隊 佐し、直政没後は、統率がとれなかっ で重要な役割を果たしました。以後も た井伊家をまとめるなど、初期彦根藩 に仕えた家です。守勝は直政をよく補 であった木俣守勝以来、代々、井伊家 木俣清左衛門家は、徳川家康の家臣



徳川家康自筆書状

笙

銘大信貴・

うとするものです。

師時 北野 智也(当館学芸員) 当館講堂 5月20日(土) 14時~(30分程度))

無料

会場

■ 定 員 50名(先着順)

> 6/23 (金) 7/25 (火) デーマ展 展示室1

井伊直亮の雅楽器収 大コレクション形成の現場 集

属品、伝来、伝承、金額に至るまで、豊 道具帳には、楽器の仕様のみならず、附 れています。直亮自らが丹念に記録した は、日本屈指のコレクションとして知ら 五〇)が生涯を通じて収集した雅楽器群 たっては、保存箱を作成して自ら箱書き 富な情報が記されています。保管にあ 彦根藩主井伊直亮(一七九四~一八



ションの実態に迫ろ 直亮の雅楽器コレク 録や作品を通じて、 本展は、豊富な記

○スライドトーク○

講 師時 髙木 文恵(当館学芸員) 6月24日 (土) 14時~ (30分程度)

■ **■** 定 参 加 費 場 当館講堂

50名(先着順

金 亀 玉 鶴



彦根藩主の家老下屋敷訪問

かつ親密な関係で結ばれていたのです。 え、香奠を贈りました。礼を尽くした、 家老本人やその父母、妻などが亡くなっ の家臣とは待遇が異なりました。例えば ない相手であり、江戸時代を通じて、他 ても、家老は敬意を払って接しなければ 俣家のような家もありました。藩主とし 井伊家初代直政とかつて同輩であった木 身の家臣五人から八人が家老を務めまし 職でした。彦根藩では、 下にあって藩政を総覧する最も重要な役 木俣清左衛門家を筆頭に、千石以上の大 江戸時代の藩において、家老は藩主の 家老には、元は徳川家康の直臣で 藩主からお悔やみの言葉を伝 領地高一万石の

> 家老が城下の本宅とは別に郊外に所持 訪問の様子を見てみましょう。 文書)により、長野家をのぞく三家への ていた下屋敷の事例です いずれも

それから鉄砲矢場で鉄砲を撃った後、 所に戻り御膳を食べ、再び山へ上がり、 斎宮からの礼を受け、その後、股引に着 直亮は、御座所で休息し、継続に着替え、 医師らを供に従え、斎宮の迎えを受けた 馬で訪問しました。近習衆・御櫛役・御 キロ隔てた野田山村の庵原斎宮下屋敷に へ廻り、酒と吸物を飲食しています。 一十八日、直亮は、彦根城から東に約五 ①庵原斎宮下屋敷への訪問 山で松茸狩りを行いました。御座 卓が

が催されることもありました。 が振る舞われました。この屋敷では、 などが下され、同家家臣たちにも酒・肴 母や息子、 直亮から土佐に羽二重・鮮鯛・酒、その ました。「侍中由緒帳」によれば、この時、 原村にある木俣土佐下屋敷に船で訪問し 月四日には、城下町北に接する湖岸の松 ②木俣土佐下屋敷への訪問 同年十一 娘にも羽二重・交肴・八丈嶋 能

訪れるのを通例としましたが、 宿本陣で御膳を食べ、宇津木家下屋敷を 日にその年初めての鷹狩りを行い、 出初」は「御鷹野初」ともいい、正月五 宇津木兵庫下屋敷に立ち寄りました。「御 城下町からわずかに南に隔てた平田村の 月二十二日の「御出初」に際し、 ③宇津木兵庫下屋敷への訪問 直亮が風 直亮は 十年正

する家老の家は限られています。それは 各家を通覧した時、藩主が定期的に訪問 中由緒帳」(彦根藩井伊家文書)で家老 ます。彦根藩士各家の履歴を記した「侍 るために、藩主の家老屋敷訪問に注目し

ここでは、藩主と家老との関係を考え

木俣清左衛門家と庵原助右衛門家、長野

宇津木治部右衛門家の四

の井伊直亮の外出記録である「御出留」(同 家です。文化九年(一八一二)から十年

> られています が下され、 りました。直亮から兵庫に交肴と羽二重 邪気であったため延期され、この日とな 兵庫は直亮から盃を頂戴し、 れました。献上の肴はすぐに料理され、 兵庫から交肴と菓子が献上さ 返盃を命じ

が藩主の活動に組み入れられ、藩主と家 出初」に伴います。ここでは家老下屋敷 いることが興味深く思われます。 主と家全体との親密な関係が維持されて 主に加え、その家族と藩主が交際し、 います。また、②の木俣家の例では、 老が特別で固有な関係を結ぶ場となって を伴ったものと考えられます。③は「御 ①は例年九月・十月であり、 松茸狩り 当

明、今の意ううでたかいます。 けるけれるすりのはれずる 一方金とかるの何の妻日から 多遊野の何点有多の他上できる

一大力版的後引了色的な中心 安之男白口棒位之常作特到交惠 は多くるをしめれてるいか くりいるとうなめんとうりなること りとうたかちとうないないあるはず 風からいるがちをあなられるの 例でもあるでいまり

御出留(部分)

受付開始

いるがれるのうかっちゃっちゃるのる

ぬしと作るされるなしなるかんだ

催

彦根藩資料調査研究会 公開研究会 ®

どのようなものであったのか、また誰がそれを 道筋なども含めて具体的に紹介します。 支えたのかを、御殿から城下を通って外出する 行った場面に焦点を当てます。殿様の外出とは 研究を進めています。今年度の公開研究会では、 昨年度より当館学芸員と外部研究員による共同 井伊家十代当主直幸が

鷹狩りや寺社参詣などを 当館では、「殿様の日常生活」の解明に向け、

■日時・テーマ

3月26日(日)13時~16時30分 「殿様の外出

井伊家十代当主直幸による 鷹狩りと寺社参詣を中心に ―」

報告者 ■会場・定員 当館能舞台正面見所 並木昌史氏(徳川美術館)、 60 名

■受講料 5 0 0 円

竹内光久・北野智也(当館学芸員)

渡辺恒一)

■受付 当日受付

(先着順、 12時30分から受付開始

講座 私の研究最前線

かりやすく解説します。 当館学芸員が、自らの研究テーマについて、

■日時・演題・講師

6月3日(土) 14時~15時30分

| 菊満香 ― 琳派に魅せられた幕末の女性画家 髙木文恵 (当館学芸員)

■受付 当日受付 資料代 当館講堂 50名 (先着順、13時30分から 1 0 0 円

■会場・定員



吉村満香画 (個人蔵)画(部分)

ス ケジュ ル 3月~6月

$\overline{6}$ 月 3 5 4 月 月 月 24 土 17 土 10 土 3 土 27 土 20 土 17 水 22 土 26 日 18 土 14 火 ~ 大名の装い 歸庭 国宝・彦根屛風スライドトーク 公鼠研究会 井伊直亮の雅楽器収集スライプトーク 16 彦根藩筆頭家老木俣清左衛門家文書 「菊満香」 古文書のみかた 古文書のみかた 古文書のみかた 休 休 「殿様の外出 館 館 初級編③ 初級編② 初級編① 井伊直亮の 大名の装い 井伊家伝来装束を中心に 滋賀県指定有形文化財 指定記念 雛と雛道具 雅楽器収集 国宝・彦根屛風 彦根藩筆頭家老木俣清左衛門家文書 5/19~6/20 2/10 一大コレクショ ン形成の現場- $4/20 \sim 5/16$ $3/17 \sim 4/17$ ~3/13 6/23 ~ 7/25 常設展示 との出会い "ほんもの ^{5/}16、18 ^{6/}21 · 22 ^{4/}18 · 19 3/17 $^{2/}$ 10 \sim $^{3/}$ 13 展示替により 一部休室 施設整備により一部休室 展示替により一部休室 展示替により 一部休室 展示替により 一部休室

募集

令和5年度 支援スタッフ●

スタッフを募集しています。 当館の事業をサポートしていただく支援

■活動内容

 教育普及事業 運営スタッフ 小学生対象体験講座の

②調査研究事業 (体験メニューの準備、指導補助) 古文書解読ボランティア

(彦根藩井伊家文書等の古文書解読)

■申込方法 「支援スタッフ」係まで、 る方が対象です された方、または同程度の解読力を有す

■申込期間 3月1日(水)~3月17日 時30分~17時) 話にてご応募ください。(土日を除く8 金

*定員は各10名程度(先着順) *①・②の兼務可。

*当館開催教室「古文書のみかた」を修了

令和5年度 古文書のみかた •

文書のみかた中級編」を開催します。 かた 初級編」と、読解力を深めるための「古 《古文書のみかた 初級編》 古文書解読を基礎から学ぶ「古文書のみ

開講日時

8月5日(いずれも土曜日)の14時~16時 5月27日、6月10日、17日、7月1日、15日、

場所 当館講堂

定員 30名(応募者多数の場合は抽選)

テキスト代 500円

申込方法 ①または②で申込ください。

> ②往復はがき(1人1通)の往信の裏面 ①彦根市電子申請サービスから申し込む 名面に住所・氏名を明記の上、「古文書 のみかた」係に郵送。 に住所・氏名・電話番号を、返信の宛

■その他 *受講の案内は、5月2日(火)以降に通知 |申込期間||4月1日(土)~21日(金)必着

から11月、募集は7月の予定です。 「古文書のみかた 中級編」は、開催は9月

彦根城博物館友の会 会員

文化との出会いを楽しみませんか。 ■会員特典 ①彦根城博物館の常設展ほか、展覧会が観 「彦根城博物館友の会」に入会して、 歴史•

会員期間

*友の会専用電話0749-47-5787

彦根城博物館友の会事務局

(中野)

講演会や現地研修等に参加できます。 だより等をお送りします。③友の会主催の 覧できます。②友の会ニュースや博物館 入会から令和6年3月31日まで

■年会費

休館・一部休室のお知らせ◆

迷惑をおかけしますがよろしくお願いいたします 【一部休室】 施設整備のため休館・一部休室いたします。 2月10日(金)~3月13日(月) 3月1日(火)~16日(木) ご

*

「古文書のみかた」は事前申込制です。

現在、開催を予定している展示・講座等は、 彦根市や当館のホームページ、ツイッターは、 彦根市や当館のホームページ、ツイッターは、 彦根市や当館のホームページ、ツイッターは、 彦根市や当館のホームページ、ツイッターは、 彦根市や当館のホームページ、ツイッターは、 彦根である。 等でご確認ください

■問い合わせ先 ■入会方法 ジュニア会員 ご利用ください。(郵送可能・要問い合わせ) 賛助会員 一般会員 当館受付にある入会申込書を (小・中学生) 1口以上(1口:1万円) 5 百 円 2 千円

Hikone Castle Town

彦根城博物館

〒522-0061

滋賀県彦根市金亀町1番1号 TEL 0749(22)6100 FAX 0749(22)6520 https://hikone-castle-museum.jp/

